

研究主題

「多様な価値観にふれ、多面的・多角的に考える生徒の育成」
 ～「考え、伝え合う」道德授業の実践を通して～

朝霞市立朝霞第五中学校

1 研究主題の設定理由

近年、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることが一層求められている。このような課題に対応していくためには、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観を前提として、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察する力を育成することが必要である。本校の生徒は、素直でやさしい生徒が多い一方で、狭い限られた人間関係の中でのコミュニケーションしかとれず、多様な価値観にふれ、自己の考えを広げる機会が少なく、物事を広い視野から捉えることができる生徒は少ない。

そこで、道德科の授業における「考え、伝え合う」活動を通して、様々な見方や考え方から総合的に考察し、多面的・多角的に考える生徒を育成したいと考え本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1)「考え、伝え合う」道德授業を実践することで、自分だけでは気付くことができなかつた多様な価値観にふれることができ、多面的・多角的に考える生徒を育成できるであろう。（授業研究部）
- (2)多様化する生徒の実態に応じて、目標や方法などの「見える化」を行うことで、多面的・多角的に考える生徒を育成できるであろう。（環境整備部）
- (3)指導重点目標を生徒の実態から設定し、家庭・地域と方向性を共有する取組を推進すれば多面的・多角的に考える生徒を育成できるであろう。（資料統計部）

3 研究の経過

時期	内容
4月24日	第1回校内研修会○3部会の取組計画○学年ローテーションの実施
5月15日	第2回校内研修会○「考え、伝え合う」時間の教員研修
6月5日	第3回校内研修会○校内授業研究会の指導案検討会（学年ごと） ○「考え、伝え合う」時間開始（週1回）
7月10日	○校内道德科授業研究会（8クラスで実施） ・1年生3クラス「裏庭のできごと」（明日への扉1 学研） ・2年生2クラス「キャッチボール」（明日への扉2 学研） ・3年生2クラス「笛」（明日への扉3 学研） ・特別支援学級1クラス「感謝の気持ちをもって」 ○全体指導者（各クラスの指導者は埼玉県道德教育研究会より8名派遣） 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 芳賀 一行 様

令和5年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 新居 良介 様 埼玉県教育局南部教育事務所学力向上推進担当指導主事 坂井 貴文 様 朝霞市教育委員会学校教育部教育指導課指導主事 大城 倫子 様
7月13日	第4回校内研修会 ○校内道徳科授業研究会の振り返り
8月29日	第5回校内研修会 ○3部会の取組の振り返り
9月19日	第6回校内研修会 ○研究発表会の指導案検討会
11月8日	埼玉県道徳教育研究推進モデル校研究発表会（11クラスで実施） ・1年生3クラス「公平とは何だろう」（明日への扉1 学研） ・2年生3クラス「危険地帯から実りの土地へ」（明日への扉2 学研） ・3年生4クラス「優介の決意」（明日への扉3 学研） ・特別支援学級1クラス「すべての人に読書の楽しさを」 （彩の国の道徳「未来に生きる」埼玉県教育委員会） 〈指導者〉 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 井上 結香子 様 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長 高田 淳子 様 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課教育指導幹 阿部 弘之 様 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 芳賀 一行 様 埼玉県教育局南部教育事務所主席指導主事 水落 美佳子 様 埼玉県教育局南部教育事務所学力向上推進担当指導主事 坂井 貴文 様 朝霞市教育委員会学校教育部長 野口 邦彦 様 朝霞市教育委員会学校教育部教育指導課長 松本 欣巳 様 朝霞市教育委員会学校教育部教育指導課指導主事 大城 倫子 様
12～3月	今年度のまとめと来年度の計画

4 研究の内容

(1) 授業研究部の取組

①学年ローテーション授業の実施

全教員の道徳科の授業の指導力向上を目指して、全学年で月曜日の5時間目を道徳科の時間とし、学年ごとにローテーションしながら授業を実践した。



②授業相互見学

道徳科の時間に教員が自由に他のクラスの授業を参観し、様々な指導方法を学ぶ機会を設定した。授業後は、授業者と振り返りを行い、多面的・多角的に考える指導方法などについて意見交換した。



③全教員による指導案作成、校内授業研究会の実施

校内道徳科授業研究会を7月10日（月）5時間目に実施した。教員一人一研究授業を実施するために、今回は教務や副担任の教員が中心となって研究授業を行った。

令和5年度埼玉県道德教育研究推進モデル校 実績報告書

指導者は埼玉県道德教育研究会より8名派遣してもらった。また、学区内の朝霞第三小学校の教員にも参観してもらい、分科会において様々な視点から意見交換を行った。

④埼玉県道德教育研究推進モデル校研究発表会

11月8日(水)に、埼玉県道德教育研究推進モデル校研究発表会を開催した。全クラスで担任が研究授業を実践し、授業後は、教員の「考え、伝え合う」時間を設定し、教員同士で「生徒の多様な考えや思いを引き出すための指導方法の工夫」について意見交換をした。また、その後、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官井上 結香子 様から「『特別の教科 道德』の充実に向けて」をテーマに講演会を開催した。

【内容】

13:15～14:05 研究授業(全クラス)

14:20～14:45 教員の「考え、伝え合う」時間

15:00～15:35 全体会 指導・講評



埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 芳賀 一行 様

15:35～16:25 講演会「特別の教科 道德」の充実に向けて 井上 結香子 様

⑤県独自の道德教材の活用

「彩の国の道德『未来に生きる』」を活用し、2年間で4つの題材を道德科の授業で扱った。今年度は「最後の思い出」(中学校B 友情、信頼)と「すべての人に読書の楽しさを」(中学校C 社会参画、公共の精神)を実践した。特別支援学級では、11月8日の道德教育研究発表会において、「すべての人に読書の楽しさを」を題材として研究授業を実践し、県内の小中学校の教員が参観した。

(2) 環境整備部の取組

①「考え、伝え合う」時間の設定

教員のファシリテーション能力を育成し、学級での発表しやすい環境をつくるため、6月から7月にかけて週1回、水曜日の放課後に全クラスで美術の鑑賞教育の活動を10分間取り入れ、「考え、伝え合う」時間を設定した。指導方法としては、教員がファシリテーターの役割をにない、生徒の思いや考えを引き出し、多様な価値観にふれる活動となるよう工夫した。小グループでの話合いや生徒がファシリテーター役をにない多様な意見を引き出す方法も取り入れた。

②校内道德啓発用掲示物の作成

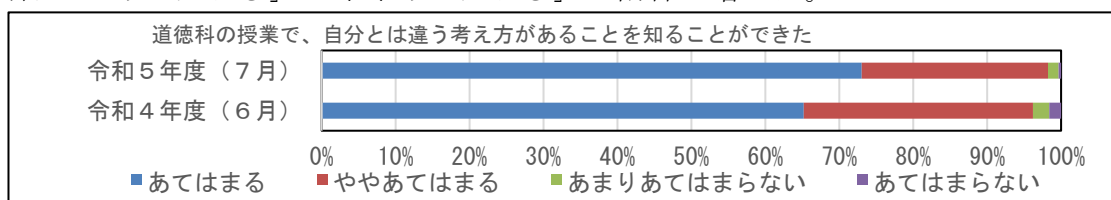
「考え、伝え合う」道德授業を実施するために、校内の随所に「朝霞五中の道德 考え 伝え合う」「聞くこと 話すこと」と書かれた掲示物を作成・掲示し啓発している。また、伝え合う力を高めるため、道德科の授業で使用するファイルに、「話す力」「聴く力」の行動目標を貼り、生徒が道德科の時間に常に意識して、活動できるよう工夫している。また、各学年の道德コーナーを設置し、考え伝えた生徒の意見や様子などを掲示している。



(3) 資料統計部の取組

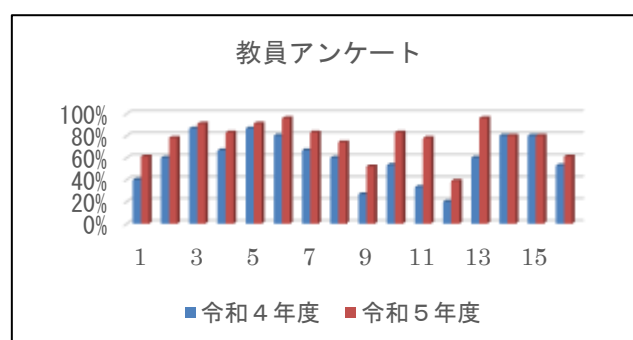
①生徒アンケートの実施

全校生徒を対象に道徳科の授業についてのアンケートを実施し、道徳科の授業に対する意識の変容を調べた。質問は、生徒に多面的・多角的に考える力がついたかどうかを調べるための内容11項目を設定していた。その結果、昨年度よりすべての項目で「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が増えた。



②教員アンケートの実施

教員を対象に、道徳科の授業についてのアンケートを実施し、教員の道徳科の授業に対する意識の変容を調べた。質問は、道徳科の授業の指導方法を工夫し実践しているかどうかを調べるため、16項目を設定している。その結果、ほぼすべての項目において昨年度より達成率が上がった。



③保護者アンケートの実施

保護者と方向性を共有するために、道徳科の内容項目について、保護者からみた子どもの達成状況や願いなどについてアンケートを実施した。その結果、ほぼすべての項目で、昨年度より身についたと思う割合が増えていた。

④心理テスト「hyper-QU」の実施

生徒に心理テスト「hyper-QU」を実施し、学級満足度や学校生活意欲度、ソーシャルスキル等について実態把握し、安心して自分の意見が言える学級になるよう配慮した。

5 研究の成果と課題

(1)成果

各アンケート調査の結果から、教員の道徳科の授業に対する意識が向上し、指導力の向上につながった。また、生徒が道徳科の授業において、自分の考えや思いを表現することができるようになってきた。県の「規律ある態度」の「⑩話を聞き発表する」の達成率においても、今年度は、本校の達成率（5月調査）が **83.7%** となり、昨年度の79.1%を **4.6ポイント** 上回っている。

(2)課題

保護者アンケートから、道徳教育の中で、家庭では指導することが難しい集団や社会で必要なルールやマナーを学習する活動を特に取り入れてほしいという意見が多くあった。今後、学校が核となり保護者や地域と協力して保護者や地域の願いも取り入れた道徳教育を推進できるようなしくみをつくる必要がある。